

野生動物保護と自然の研修

森田正治

I. 研修について

前年度の名古屋での養成講座に引き続き、プロ・ナトゥーラ・ファンドから助成を受けることができ、3つの研修に取り組むことが出来ました。各地でボランティア養成講座が開かれるようになって来たものの「スキルアップ研修」の機会が少ないのが現状です。個体保護のみならず自然環境全体にも目を向けてもらう為に、野生動物保護セミナーを開講して幅広い講師を迎えての研修を続けています。

II. 研修

1. 野生動物レスキュー&リハビリ・スキルアップ研修～秋の講座/実技&講義

1) 実技

実習の機会が少ないことから、バードクリニック金坂動物病院の協力を得て、11月6日に生体の鳥などを使って研修を行いました(写真1, 2)。9名が受講し、満足度はとても高いものでした。

日時 2010年11月6日(土)13:30～15:30. 受講料 1,000円. 場所バードクリニック金坂動物病院(千葉市). 講師金坂裕(同院長), 代診ほか. 定員10名. 受講者9名(1名キャンセル).

2) 講義

11月7日午前は、会場を東京大学に移し「スキルアップ研修」を3講師がレクチャーし(「鳥

類の鉛中毒」, 「鳥獣の管理&育成」, 「応急処置」), 30名が受講しました。

日時 11月7日(日)9:30～12:20. 資料代300円. 場所東京大学農学部. 講師, 森田正治(道東野生動物保護C長)「鉛中毒」, 金坂裕(B.C.金坂動物病院長)「鳥獣の管理/育成」, 中津賞(中津動物病院長)「応急処置」. 受講者30名.

2. 第7回野生動物保護セミナー in 関東

11月7日午後には講師4名によるセミナーを開催しました。東大獣医病理学の中山教授の特別講義のあと、神奈川県野毛山動物園と自然環境保全センターの獣医師2名、そして「国際生物多様性年」でもあり「ツシマヤマネコ」の保護活動で頑張っておられる獣医師1名からお話をいただき、講師は4名、参加者は約70名となりました。

受講者70名. 日時:2010年11月7日(日)13:00～16:30. 資料代300円. 場所東京大学農学部. 歓迎の挨拶中山裕之教授. 特別講演:中山裕之(東京大学大学院/獣医病理学研究室教授)「野生動物の病理学—病気の進化という視点から」, 加藤千晴(神奈川県自然環境保全C獣医師)「傷ついた野生動物が教えてくれたこと」, 松本令以(野毛山動物園獣医師)「JICA事業によるウガンダ野生動物教育Cでの活動」. 特別報告, 越田雄史(対馬動物医療センター院長)「ネコとツシマヤマネコと私」

3. 野生動物レスキュー & リハビリ・スキルアップ研修／春の講座

受講者 125 名と教室の席があふれる予想以上の好評を得ました。具体的なレスキュー & リハビリの方法をデモもまじえて 3 講師より講義いただき、大学の授業並みの中身の濃い内容でした。また、ケニア在住の神戸先生にも特別講義をお願いし、多くの方々に国際的な感覚を持っていただけたかと思います。

受講者 125 名。日時:2011 年 6 月 18 日(土)13:00～17:00。受講料:300 円。場所:中央動物専門学校別館(東京都北区)。歓迎の挨拶坂本敏(中央動物専門学校長)。激励のコメント山根義久(日本獣医師会長)。森田正治(道東動物・自然研究所理事長)「野生動物医学の基礎知識」。



写真 1 実技会場(千葉市バードクリニック金坂動物病院)。

野村 亮(自然環境アカデミー事務局長)「野鳥の初期救護とリハビリについて」。高島一昭(鳥取県動物臨床医学研究所長)「野生動物の保護と救護の現状—行政との連携の重要性と実際の救護方法」。特別講義, 神戸俊平(ケニア在住・獣医師)「アフリカの野生動物の現状」。

III. まとめ

受講者は学生等の若い人たちが多く、野生動物保護を通して、自然界全体について学んでいただき、これを機会に大いに羽ばたいてくれるものと期待しています。2 年間にわたり助成をいただき、日本での遅れた分野の研修事業を推進できたことに感謝の気持ちです。



写真 2 実技風景。生きた鳥を使つての経口投与。

Study of wildlife rescue and rehabilitation and nature

Masaharu Morita